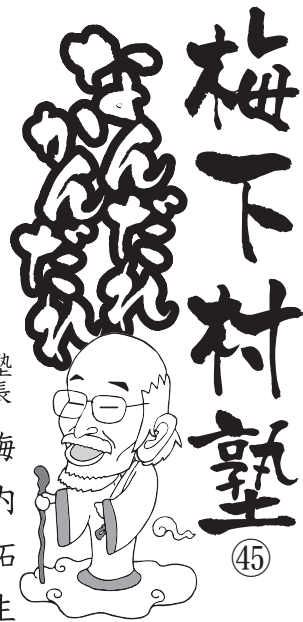


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



45

塾長 梅内 拓生

3・11の詩人たち―
心の軌跡― 「大船渡
詩の会」発行 5月29
日 第5面からの抜粋

(祈り)

照井 由紀子

地球
巨大な生き物 その地
表に人はかろうじてし
がみつぎ生きていると
思い知る
地球の永遠の巨大を視
野に人は立てないのだ
から
あの日 と折り合いを
つけるなど出来ない
生かされた感謝 生き
る義務…と
ふり絞った理性が
相反する思いを押しと
どめるのがやっと

(駅ごと)

たむら えいこ
あの日あの時消えた
歴史を物語る駅舎や線
路の
復旧を一日千秋で待ち
望みながら

望みながら

東海文芸 詩 記憶
5月30日 第5面から
抜粋

(記憶)

齊藤 茂樹

「三・一一」
あの空まわしい日から
一年以上も過ぎ
変化のない生活に埋も
れ
生活の中にささやかな
生きがいを感じている
もはやひどく寒かった
季節は過ぎて
硝子窓のそとは柔らかな
春の光にみちている

(時計)

詠み人しらす

「大震災 駅舎の時計
その時刻」

3・11の記憶、いろ
いろな思いの記憶、消
えゆく記憶、心に深く
刻まれた記憶、無意識
の深い底で静かに息づ
く記憶、駅の時計に刻
まれた大震災の時刻、
詩はこれらの記憶を現
実と未来につなげてい
る。

(汽車とバス)

詠み人しらす

おおまわり こまわり
比べ考える

5月22日の第一面に
「注目集める気仙沼線
対応BRT仮復旧に着
工 大船渡線は依然検
討段階」とあり、5月
31日の第一面には「三
陸鉄道南リアス線 盛
―吉浜間が着工 来年
4月の再開目指す」と
掲載されている。この
一週間で大船渡線は
「検討段階から着工」

へと大きく歩みを進め

ている。行政の情報開

示、マスコミの情報収

集状況とは別に被災地

復興と交通機関の關係

を考えると、高台移

転、高齢化社会、過疎

化、コンパクトシテ

ィ、住民サービス、建

築経費、維持費、など

の対費用効果などを考

えて、汽車とバスのど

ちらを選ぶべきか、両

方を取り入れるべき

か、じっくりと地域住

民が主体となって行政

と専門家を交えての話し

合いが不可欠である

と思われる。

(湾口防波堤と湾縁
防波丘林)

詠み人しらす

自然力 活かして防災
その知恵を

5月29日の第一面に
「湾口防復旧合意へ」
条件” 市漁協が要望
書 干潟造成など30項
目求める 大船渡」と
掲載され、8面には
続・思い出写真館”こ
ころの情景 リアスの

海 大船渡市」が掲載

され、美しいリアス湾

をたたえる文章が続

き、最後の文章は「眼

下には、天然の良港に

誘う湾口防波堤が真っ

すぐに伸びていまし

た。」と記述されてい

る。大震災と天津波に

根こそぎ破壊された湾

口防波堤は、津波の防

御、湾内海流運動、湾

内生態学的検討、湾内

海産物産業など、いろ

いろな視点からの検討

が必要である。瓦礫に

土盛りをして、いろい

ろな樹木を植林して、

湾縁防波丘林を造成す

る。これも一つの検討

に値する提案である。

湾口防波堤と湾縁防波

丘林、どちらを選ぶべ

きか、両方を取り入れ

るべきか、じっくりと

地域住民が主体となっ

て行政と専門家を交え

ての話し合いが不可欠

であると思われる。気

仙の歴史から学び、そ

して生み出した知恵と

心に大きな期待を寄せ

ておられます。